

小中一貫町田っ子カリキュラム キャリア教育（改訂版）



中学生職場体験の様子



小中連携授業の様子

2025年3月
町田市教育委員会

目次

- 1 **キャリア教育 -3つの学習期-** … 3
- 2 **キャリア教育で身に付ける力** … 4
- 3 **町田市のキャリア教育** … 5
- 4 **町田市版キャリア教育プログラム** … 7
- 5 **町田市版キャリア・パスポート** … 9
- 6 **実践事例** … 12

キャリア教育

キャリア教育とは、「児童・生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」です。

*キャリアとは

人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね。

*キャリア発達とは

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程。

3つの学習期

小中一貫町田っ子カリキュラム「キャリア教育」は、「自分らしい生き方を実現しようとする児童・生徒を育てる」とをねらいとしています。

● 第1期 (小学1年生～4年生)

一様々な人に出会い、交流・体験活動を通して、「自分がしたいこと」を見付け、役割を自覚する学習期一

小学1年生から4年生までの学習期は、好奇心が旺盛で、自分の好きなことを見付けることで、興味・関心が高まる時期です。地域の働く人々と直接触れ合い、交流する活動や、家庭で自分の役割をもって活動することを通して、ほめられたり認められたりする経験を積むことが必要です。

● 第2期 (小学5年生～中学1年生)

一集団の一員として「自分ができること」を考え、将来に対する漠然とした夢やあこがれを抱く学習期一

小学5年生から中学1年生までの学習期では、積極的な学習活動とともに、幅広い興味・関心を持ち、深い理解が可能になることで、自分のよさや個性が分かる時期です。集団の中で自己を生かしたり、他者との違いに気づき、尊重したりしながら、役割を理解し、それを果たそうとする経験を積むことが必要です。

● 第3期 (中学2年生～3年生)

一第2期までの経験を生かして「社会が求めていること」を意識し、将来に目を向け、自分らしさについて考える学習期一

中学2年生から3年生は、精神的な成長が見られ、自分自身を客観的に振り返ったり、見通しをもって先のことを考えたりすることができる時期です。自分の成長過程を振り返ったり、自分のよさや適性に気付いたり、進路等を含めた将来の自分の生き方や在り方を考えたりする経験を積むことが必要です。

その他、
全教育活動を通じて
子どもに経験させたい活動

- 様々な職業の方と直接触れ合う経験
- 働いて人に感謝される経験
- 企画・運営する経験
- 生産や販売する経験
- ルールやマナーを体得する経験

キャリア教育で身に付ける力

人や社会と
かかわること

人間関係形成・社会形成能力

多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力。

この能力は、社会とのかかわりの中で生活し仕事をしていく上で、基礎となる能力である。

自分のよさを
のばすこと

自己理解・自己管理能力

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力。

この能力は、子どもや若者の自信や自己肯定感の低さが指摘される中、「やればできる」と考えて行動できる力である。

経験・体験を
生かすこと

課題対応能力

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力。

この能力は、自らが行うべきことに意欲的に取り組む上で必要なものである。また、将来の予測が困難な複雑で変化の激しい社会の到来やグローバル化等を踏まえ、従来の考え方や方法にとらわれずに物事を前に進めていくために必要な力である。

働くことや
将来の生活について
考えること

キャリアプランニング能力

「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリア形成をしていく力。

この能力は、社会人・職業人として生活していくために生涯にわたって必要となる力である。

家庭との連携

キャリア教育は学校だけで進めるものではなく、当然ながら家庭との連携が必要である。家庭においても、子どもが自分の役割を担ったり、将来について話し合ったりすることが、学校で進めるキャリア教育にも大変重要な要素となる。教育課程外ではあるが、各家庭に理解、協力を求め、連携して、子どもたちにキャリア教育に関する力を育成していくことを進める必要がある。

町田市のキャリア教育

教育目標 **自ら学び、あなたと学び、
ともに創る町田の未来**

キャリア教育目標 **自分らしい生き方を実現しようとする
児童・生徒の育成**

キャリア教育の在り方

中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を「キャリア発達」という。

仕事
家庭
地域

学習指導要領解説「総則編」（第1章第4の1の（3））

児童が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要として各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。

町田市の実態

全国学力・学習状況調査

◎「人の役に立つ人間になりたい」と回答している児童・生徒の割合が90%を超えており、他者との関わりの中で、自分の役割を果たそうとする意欲が高い傾向が見られる。

▲「自分にはよいところがある」「失敗を恐れず挑戦する」「自分で計画を立てて勉強する」と回答している児童・生徒の割合が低く、自分自身の可能性を含めた肯定的な理解や進んで学ぼうとする態度に課題が見られる。

町田っ子に身に付けさせたい力 ※網掛け箇所が重点

社会との関わりの中で生活し仕事をしていく上で基礎となる力
【他者に働きかける力
・チームワーク等】

「やればできる」と考えて行動するとともに自らの思考や感情を律し研鑽する力
【前向きに考える力・主体的行動等】

従来の考え方や方法に捉われずに物事を進めていく力
【情報の理解、選択、処理・実行力等】

様々な情報を適切に取捨選択・活用し、自ら主体的に判断しキャリア形成する力
【将来設計・行動と改善等】

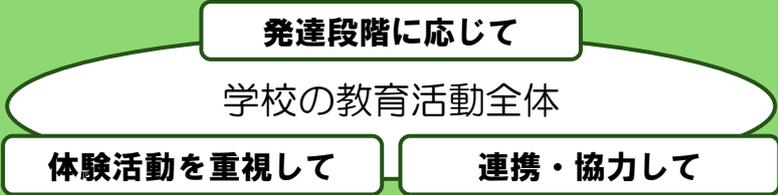
人間関係形成・社会形成能力

自己理解・自己管理能力

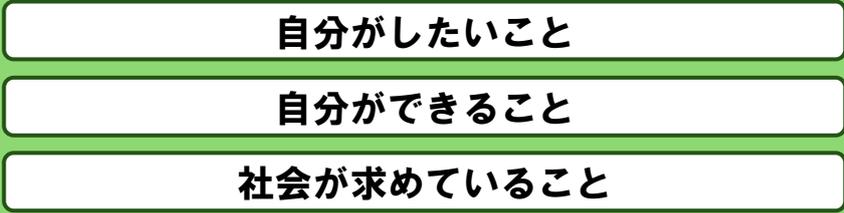
課題対応能力

キャリアプランニング能力

**町田市キャリア教育
推進の
3つの視点**



**町田市キャリア教育
育成の
3つの視点**



小・中・高の接続について（系統性）

発達段階 3つの視点	第1期 小学校			第2期 中学校			第3期 高等学校		
	低	中	高	1	2	3	1	2	3
自分が したいこと	様々な体験等を通じて「自分がしたいこと」を見つけ、将来の夢や目標につなげる。								
自分が できること	「自分らしい生き方」や「夢や目標」の実現に向けて継続的に努力し、「自分ができること」を増やし、自分のよさを伸ばす。								
社会が 求めていること	社会の一員としての自覚を深め、「自分の役割を果たそうとする」意欲や能力を高め、「自分らしい生き方を実現しようとする」意欲や能力につなげる。								

**方向性
【PDCA】**

【PLAN】：指導計画
⇒学校や児童・生徒の実態把握
⇒目指す児童・生徒の姿の明確化
⇒課題設定及び指導計画の作成

【DO】：教育活動の展開
⇒キャリア教育の「宝」の洗い出し
⇒体系的・系統的な指導

【ACTION】：分析を次に生かす
⇒指導計画の修正
⇒個別支援・指導
⇒学校間・地域・社会連携

【CHECK】：多面的・多角的な評価
⇒児童・生徒の変化の把握
⇒教育活動の評価

各学校のキャリア教育

【学校・保護者・地域】

全体計画・年間指導計画

各教科の授業

地域人材の活用

活用

支援

町田市版キャリア教育プログラム

【町田市教育委員会】

職場体験事業

販売体験活動

CAPS・MESE

外部人材バンク

学級活動／ホームルーム／キャリア・パスポート

町田市版キャリア教育プログラム

町田市版キャリア教育プログラムとは

児童・生徒へ様々な経験やチャレンジの機会を提供するために、中学生による職場体験事業に加え、「CAPS・MESE プログラム」（企業経営の意思決定シミュレーション）や販売体験活動など、キャリア教育に関する学習活動や外部人材の活用等を系統的にまとめたプログラムのこと。このプログラムを通して、各学校の特色に応じたキャリア教育を小・中学校全校で実施する。

町田市版キャリア教育プログラムの概要



販売体験活動

対象 小学校 ※地域との連携等で実施可能な小学校で行っています。

学校や地域に由来のあるもの等を、多くの人に手に取ってもらうよう、様々な工夫をして、実際に販売する体験活動。

取組例

● 桶販売

企業と連携し、集めたペットボトルのキャップから桶を作成し、実際に販売した。

● 野菜販売

校内の敷地を利用して、ほうれん草と大根を育てて収穫し、実際に販売した。

CAPSプログラム

対象 小学校

児童が、帽子を製造・販売する仮想会社の重役として経営に関わる様々な意思決定を行う経営シミュレーションプログラム。PC上で会社を経営し、価格や仕入れ、広告費など商品販売に関する要素についてグループで話し合って決め、経営力を競う。

MESEプログラム

対象 中学校

生徒が、ペンを製造・販売する仮想会社の重役として経営に関わる様々な意思決定を行う経営シミュレーションプログラム。価格・生産量・宣伝広告費・設備投資額・研究開発費の5項目をグループで話し合って決め、経営力を競う。

職場体験事業

対象 中学校

2005年度から、本市で行っている職場体験事業は、「地域でささえよう 町田っ子の未来探し」事業として実施している。

ねらい

- 働くことの意味や意義を理解して、社会の一員として積極的に役割を担って生きていくことのできる生徒を育てること。
- 地域全体で生徒の健全育成を手助けしていただくこと。
- キャリア教育のねらいを達成するとともに、生徒が自分のよさや可能性を見いだすことによって、自己肯定感や、自己有用感を高めること。

期待する教育的意義

- 職場を訪問し、勤労体験をすることを通して、働くことや人と協力することの意義を実感し、よりよい生き方を考えるようになるなど、生徒の生きる力を育むこと。
- 地域の人との触れ合いを通して、生徒が地域社会の在り方や人との関わりについて考えることができること。
- 充実感や達成感を味わうことを通して、生徒が自己のよさや可能性、適性に目を向けることができること。



外部人材バンク

対象 小学校・中学校

職業講話や金融教育講座などキャリア教育に関する学習活動や各学校で発掘した外部人材情報を集約し、一覧化したものを学校に情報提供する。学校では、児童・生徒の実態やニーズに応じた外部人材の情報を活用し、各学校の特色に応じたキャリア教育に取り組む。

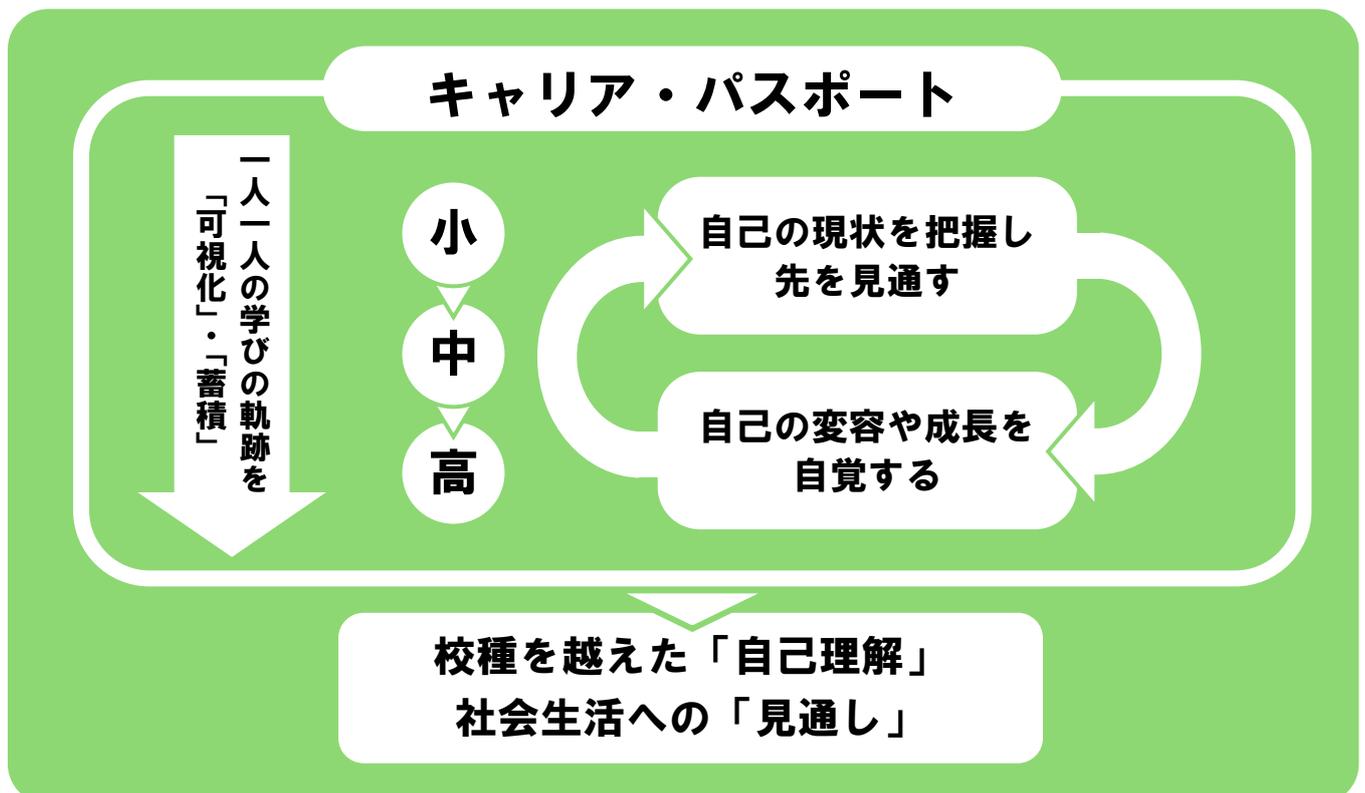
町田市版キャリア・パスポート

キャリア・パスポートの目的

小学校から高等学校を通じて、児童・生徒にとっては、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、学び続ける力を育み、自己実現につなぐためのもの。教師にとっては、その記述を基に対話的にかかわることによって、児童・生徒の成長を促し、系統的な指導に資するためのもの。

キャリア・パスポートの定義

「キャリア・パスポート」とは、児童・生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオのことである。なお、その記述や自己評価の指導にあたっては、教師が対話的にかかわり、児童・生徒一人一人の目標修正などの改善を支援し、個性を伸ばす指導へとつなげながら、学校、家庭及び地域における学びを自己のキャリア形成に生かそうとする態度を養うよう努めなければならない。



町田市版キャリア・パスポートについて

小学校6年間及び中学校3年間の9年間を通して、日々の授業や学校行事、体験活動などの活動を積み重ねていく中で、自分のよさを発見し、自分自身を振り返ることができる、町田市独自の「キャリア・パスポート（電子版）」を学校の実情に応じてカスタマイズして活用する。

内 容

キャリア・パスポートは以下の内容を基本として作成する。

① 一年間の記録を基に再編集した「一年間のふりかえり」（学年1枚）

- 「学習」、「生活」、「家庭・地域」の各項目について振り返る。
- 一年間で身に付いたことを自己評価する項目、次の学年の目標などを記入する。
- 自己肯定感を高めることにつなげる「先生や保護者などからのコメント等」

② 学校行事等（学年1枚）

- 事前の「めあて」、事後の「振り返り」を記録する。
- どのような学校行事を取り上げ、蓄積するかは各学校で決定し、原則、学年内で統一する。
- 学校行事等の集団活動を通して自分の成長や可能性、互いのよさ等を振り返る内容にする。
（例）運動会・体育祭、音楽会・合唱コンクール、移動教室・修学旅行等

③ 体験的な活動（学年1枚）

- 事前の「めあて」、事後の「振り返り」を記録する。
- どのような活動を取り上げ、蓄積するかは各学校で決定し、原則、学年内で統一する。
- 地域の魅力に気づき、勤労や職業等に関して学んだことを振り返る内容にする。
（例）町探検、職場見学、社会科見学、職業調べ、職場体験、集団宿泊活動、ゲストティーチャーの招聘、地域行事への参加、ボランティア活動等

活用方法

- タブレット端末を活用し、スプレッドシートに直接入力することを基本とする。
※直接入力が難しい場合、子どものタブレット端末（カメラ機能）を活用し、撮影した画像をスライドに貼り付ける。教員はフォルダを作成し、スライドやスプレッドシートをその中で管理する。
- 担任は、児童・生徒のキャリア・パスポートを Google ドライブ上で共有し、児童・生徒の記録を基に対話的に関わり、スプレッドシートにコメントを入力する。（学校・学年の実情に応じて）
- 保護者は、子どもが記述した内容を確認するとともに、コメントやサインを入力する。（学校・学年の実情に応じて）

活用上の留意点

- キャリア・パスポートを電子で保管するために、A4判（両面使用可）で、各学年5枚以内とする。
- 各学校の実態に応じた内容にカスタマイズすることは可能である。
- 「キャリア・パスポート」は自己評価として活用するものであり、「キャリア・パスポート」そのものを学習評価の評価材料とすることは適切ではないことに留意する。
- 特別支援学級に在籍する児童・生徒、通級による指導を受ける児童・生徒等、特別な配慮を要する児童・生徒については、個々の障がいの状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた記録や蓄積とすることができる。

データ管理について

- 個人情報保護及び紛失防止の観点から、「キャリア・パスポート」の管理は、原則、マイドライブによるデータ管理で行う。
- 特別支援学級に在籍する児童・生徒、通級による指導を受ける児童・生徒等、特別な配慮を要する児童・生徒については、印刷した書面による管理も可能とする。
- 学年間の引き継ぎについては、原則、教師間で行う。

引継ぎについて

- スプレッドシート形式のファイル1点に情報を集約する。
- 別ファイル（画像等）で保管しているものがある場合、児童・生徒がスプレッドシートに貼り付ける、又は入力し、1つのファイルに統合する作業を、卒業までに確実に実施すること。
- 校種間の引き継ぎは、基本的に電子ファイルによる引き継ぎで行う。小学校第6学年から中学校への引継ぎについては、生徒同士が電子ファイルを共有しないように十分に留意する。
- 引継ぎにあたっては、児童・生徒の抄本、健康診断票と同様の扱いとし、取扱いに十分に留意する。
- 転出、進学等においては、児童・生徒が転出先・進学先の学校に持っていき活用するため、確実に引き継ぐ。
- 具体的な引継ぎ方法等については、毎年2月頃に、町田市教育委員会から学校へ通知する。

引継ぎ方法一覧

卒業する学校	進学先	引継ぎ方法
市立小学校から	市立中学校へ進学	電子データで引継ぐ
	市立中学校以外へ進学	印刷し、紙で引継ぐ
市立中学校から	都立高等学校へ	電子データで引継ぐ
	都立高等学校以外へ進学	印刷し、紙で引継ぐ
	進学先が未決定	印刷し、紙で家庭に渡す

実践事例

キャリア教育は全教育活動で育むものです。その中で、ここに掲載している実践事例は、キャリア教育で身に付けさせたい力を、日々の授業の中で育成していくことをねらいとして作成したものです。

実践事例の構成

【単元の目標】

各教科の目標を記載しています。どの実践においても、教科の目標を第一に考え、達成することが重要です。

【キャリア教育として身に付けさせたい力】

子どもの学習活動から、その体験を通して身に付けてほしい力を示しています。文末にある【 】内の力は、キャリア教育で育成を目指す基礎的・汎用的能力を示しています。(P.4 参照)

【指導計画】

指導計画に示している時間数は基本的な時数を示しているので学校の実態に合わせて弾力的に扱うことができます。また、基礎的・汎用的能力がどの時間内で育成することができるかを【 】で示しています。

【授業を実践するポイント！】

キャリア教育で育成を目指す基礎的・汎用的能力を身に付けさせるためのポイントや、授業を進める上でのポイントを示しています。

小学6年生 国語 3時間

単元名 「対話の練習」

いちばん大事なものは

単元の目標

・互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができるようにする。

キャリア教育として身に付けさせたい力

・自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えを肯定的に受け止めたりする対話の練習を通して、価値観の違いに気付いたり自分の考えを深めたりする力を育む。【人間関係形成・社会形成能力】

指導計画

時数	学習活動・内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・どうして対話の練習をするのかということについて、「自分が大人になった時、求められる力」という視点でイメージする。 ・対話の仕方について、教師と複数の児童で手本を見て理解する。 ・対話のテーマとなる「もしも丸一日時間があったら何をしたいか」「中学生になったら大事にしたいこと」について、自分の考えをもつ。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ※に基づいて、小グループで対話を行う。 ※第2時「もしも丸一日時間があったら何をしたいか」 第3時「中学生になったら大事にしたいこと」
3	<ul style="list-style-type: none"> ・グループを変えて、対話の内容を共有しながら、もう一度対話を行う。 ・考えが深まるとは、「自分にはない考えを知り、考えが広がったこと」「自分と同じ考えを聞いて、自信をもつこと」「自分と異なる考えを聞いて、考えが変わること」であるとし、3つの視点に沿って振り返りをする。 <p style="text-align: right;">【人間関係形成・社会形成能力】</p>

授業を実践するポイント！

第1時で学習の趣意説明を行い、児童にとっての学ぶ必然性を高める。第2時は対話の練習として位置付け、必要に応じて教師が介入し、指導する。第3時は児童同士で対話をし、上記のように視点を明確にした振り返りを行う。教科の目標を達成できるように授業を構成することで、同時に【人間関係形成・社会形成能力】を育てることができる。

単元名

「もうすぐ2年生」

学級活動（3）

単元の目標

- これからの学級や学校生活に希望や目標をもち、自分なりのめあてをもって学校生活を送ることができるようにする。

キャリア教育として身に付けさせたい力

- 自分のよさや可能性に気付いたり、友達のよさを共有したりする活動を通して、自分が頑張ることについて意思決定する力を育む。【キャリアプランニング能力】

指導計画

時数	学 習 活 動 ・ 内 容
事前	<ul style="list-style-type: none"> • 1年間の成長したことや、2年生で楽しみにしていることを考え、アンケートに記入する。
1	<p>つかむ</p> <ul style="list-style-type: none"> • アンケートの結果や資料から1年間の自分たちの成長について理解し、課題をつかむ。 <p>さぐる</p> <ul style="list-style-type: none"> • これまでの成長をふりかえり、どんな2年生になりたいか話し合い、発表し合う。 【キャリアプランニング能力】 <p>見つける</p> <ul style="list-style-type: none"> • なりたい2年生になるために、今からできそうなことを話し合う。 【キャリアプランニング能力】 <p>決める</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自分のめあてを決定する。 【キャリアプランニング能力】 • 決定しためあてを共有し、励まし合う。
事後	<ul style="list-style-type: none"> • 決定しためあてを実践し、1週間後に振り返る。 • 振り返りの内容を友達と共有し、価値付ける。

授業を実践するポイント！

将来になりたい自分に向けて、自己実現していくための活動である。「つかむ」で出す資料に、今まで自分たちが頑張ってきたこと、望ましい上級生の活動の様子を写真や動画にして提示することで課題がつかみやすくなり、【キャリアプランニング能力】を育てることができる。

単元名

「まちが大すきたんけんたい」

単元の目標

- ・身の回りにはみんなで使うものがあること、それらを支えている人々がいることを理解する。
- ・地域やそこで働く人々について考えたり、公共施設などのよさについて捉えたりすることができる。

キャリア教育として身に付けさせたい力

- ・地域を探検することを通して、地域に親しみや愛着をもち、適切に接したり、正しく利用したりする力を育む。【人間関係形成・社会形成能力】

指導計画

時数	学 習 活 動 ・ 内 容
1	・学校の周りのまちの様子やお世話になっている人について話し合う。
2	・よく行く場所、紹介したい場所を紹介し合い、探検に行く場所を決める。保護者のアンケートも参考にする。
3	
4	・探検に行く場所や目的、約束について話し合い、計画を立てる。 【人間関係形成・社会形成能力】
5	
6	・下校ルートに合わせ、探検をする。地域の自然、お店、公共施設を見学する。 【人間関係形成・社会形成能力】
7	
8	
9	・探検して知ったことや見つけたものを絵や文で表現する。
10	・記録したカードを基に自分の気付きや経験を発表したり、友達と伝えあったりする。
11	・自分のまちの公共施設を訪問し、そこで働く人たちにインタビューをしたり、実際に利用したりする。 【人間関係形成・社会形成能力】
12	
13	・気付きや発見を絵や文で表現し、書いたカードを読み合って感想を伝え合う。
14	・地域で働く人々や施設やお店のよさなどについて考え、話し合う。

授業を実践するポイント！

自分たちと社会の関わりについて、実感をもって学ぶことができる学習である。探検の約束や目的を理解させることで【人間関係形成・社会形成能力】を育てることができる。

単元名

「風やゴムの力」

単元の目標

- 風やゴムのはたらきについて、力と物が動く様子に着目して、それらを比較しながら調べる活動を通して、風やゴムの力と物が動く様子との関係についての理解や実験に関する技能を身につけ、風やゴムの力で物が動く様子について追及する中で差異点や共通点をともに問題を見いだして表現する。

キャリア教育として身に付けさせたい力

- 風やゴムのはたらきについて、生活科や日常での経験をもとに問題点を見だし、実験結果をもとに考察する力を育む。【課題解決能力】

指導計画

時数	学 習 活 動 ・ 内 容
1	・ 日常で用いているものやこれまでの学習をもとに、風の力で動くものに興味・関心をもつ。
2	・ 帆掛け船を作って風の力で走らせ、問題を見いだす。 【課題解決能力】
3	・ 帆掛け船に強い風や弱い風を当て、車の動く距離を調べる。
4	・ 風の強さで、距離がどのように変化するか考察する。 【課題解決能力】
5	・ ゴムの伸び縮みを体感し、気付いたことを話し合う。
6	・ ゴム車を作って走らせ、問題を見いだす。 【課題解決能力】
7	・ ゴムを伸ばす長さを変えて走らせ、ゴム車の動く距離を測る。
8	・ ゴムを伸ばす長さで、走る距離がどのように変化するか考察する。 【課題解決能力】

授業を実践するポイント！

第1時、第5時の導入で、児童にとっての興味をふかめることで問題を見だしやすくなる。帆掛け船やゴム車を体験させ、児童の「なぜだろう」「もっと知りたい」という気持ちを高める。問題づくりと解決、という学習の流れから【課題解決能力】を育てることができる。

単元名

「表のまとめかたを考えよう」

単元の目標

- ・二次元表の整理のしかたや、読み取り方を理解することができるようにする。
- ・図や表を用い、2つの観点に着目して、資料を落ちや重なりなく分類整理できるようにする。
- ・身近な資料を異なる2つの観点から調べ、その表し方や読み取り方を考える力を養うことができるようにする。

キャリア教育として身に付けさせたい力

- ・身近な資料を読み取ったり、整理・分析したりする統計的探究プロセスを通して、見通しをもち、計画を立てて実行する力を育む。【課題対応能力】

指導計画

時数	学 習 活 動 ・ 内 容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生の学校でのけがの記録から、原因を見直す観点を洗い出す。 ・出された観点について、2人1組などになって読み上げて「正」の字を用いて表にまとめ、落ちや重なりなく調べる。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの観点を組み合わせ、二次元表に整理すると、どんなことが分かるか考える。 ・必要に応じて観点を2つ決め、二次元表に整理する。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を見て、どんな観点が考えられるか話し合い、観点と整理のしかたを洗い出す。 ・洗い出された観点をもとに、わかりやすい表を考え、落ちや重なりがないように二次元表にまとめる。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・「できるようになったこと」に取り組む。 ・「考え方モンスターでふりかえろう！」に取り組む。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの観点を組み合わせた二次元表をどのように作ればよいのかを考え、二次元表を作成する。(二次元三項目表) ・出来上がった二次元表を見て、データの特徴や傾向に着目し、データから分かることを考察する。 【課題対応能力】

授業を実践するポイント！

「的あてゲームのルールをよりよくしていこう！」という目的で、事前に子どもたちが試技した結果を記録表にまとめ、二次元表に整理していく中で、どんな当たり方をしている人が多いかを話し合い、ルール改善（的までの距離・的の大きさ等）につなげていくことで【課題対応能力】を育てることができる。「算数を使うと生活がよりよくなる！」ということを実感しやすい学習活動である。

単元名

「ごみのしよりとその利用」

単元の目標

- ・学習したことを基に、地域の人々の健康や生活環境を守るための法やきまりの大切さを考え、地域社会の一員として自分たちができることを考えたり、選択・判断したりすることができるようにする。

キャリア教育として身に付けさせたい力

- ・学習問題を自分事としてとらえ、「今の自分にできること」を具体的に考える活動を通して、よいと思うことを考え、すすんで取り組む力を育む。【自己理解・自己管理能力】

指導計画

時数	学 習 活 動 ・ 内 容
1	・ごみは生活の中でたくさん出されるものであることに関心をもつ。
2	・日常生活から出るごみを振り返り、その処理について予想して学習問を立てる。
3	・ごみの収集の工夫や収集車について調べる。
4	・燃やせるごみの処理について調べる。
5	・燃やせないごみの処理について調べる。
6	・燃やしたあとの灰、細かくされたもやせないごみの処理について調べる。
7	・ごみ処理問題はこの先どうなっていくのか考え、市の解決に向けての取り組みを知る。
8	・ごみの学習を生かして、自分にできることを考える。 【自己理解・自己管理能力】
9	

授業を実践するポイント！

学習問題（問い）を見だし、自分事としてとらえることから学びがスタートする。いかに切実感をもたせるかが今後の学習を大きく左右する。ごみの減量・資源化について、自分を見つめ、振り返り、「今の自分にできること」を具体的に考えさせることで【自己理解・自己管理能力】を育てることができる。

単元名

「いろいろなひびきをかんとろう」

リボンのおどり（ラ バンバ）

単元の目標

- ・曲想と音色やリズム、旋律の特徴、音の重なりなどとの関りを理解し、互いの楽器の音の重なりを聞き合いながら演奏する技能を身に付け、パートの重ね方や楽器の演奏のしかたを工夫し、思いや意図をもって演奏する学習に主体的に取り組めるようにする。

キャリア教育として身に付けさせたい力

- ・グループで互いの楽器の音の重なりを聞き合いながら演奏し、リズムや音色、音の重なりについて皆で話し合うことを通して、相手と関わりながらよりよいものを創り上げようとする力を育む。
【人間関係形成・社会形成能力】

指導計画

時数	学 習 活 動 ・ 内 容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の雰囲気を感じ取り、音やリズムをつかむ。 ・いろいろなパートの音を確認し、全体で合わせて合奏を行う。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・音の重なり合う響きを感じ取る。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような重ね方で演奏したいかを、思いや意図をもって考える。 【人間関係形成・社会形成能力】
4	<ul style="list-style-type: none"> ・重なり合う響きの面白さを生かし、思いや意図をもって表現の工夫をする。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで工夫した「リボンのおどり」を発表しあう。

授業を实践するポイント！

様々な楽器の組み合わせを試奏しながらグループで話し合い、音楽を作る活動である。第1時で、全員で音を合わせる意識やゴールイメージをもたせる。その後、それぞれの楽器がもつ音色を重ねた時の響きの美しさを感じながら、グループで試奏したり話し合ったりして、皆で奏でる音楽の素晴らしさや美しさを体得させることで【人間関係形成・社会形成能力】を育てることができる。

単元名

「対話の練習」

いちばん大事なものは

単元の目標

- 互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができるようにする。

キャリア教育として身に付けさせたい力

- 自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えを肯定的に受け止めたりする対話の練習を通して、価値観の違いに気付いたり自分の考えを深めたりする力を育む。【人間関係形成・社会形成能力】

指導計画

時数	学 習 活 動 ・ 内 容
1	<ul style="list-style-type: none"> どうして対話の練習をするのかということについて、「自分が大人になった時、求められる力」という視点でイメージする。 対話の仕方について、教師と複数の児童で手本を見て理解する。 対話のテーマとなる「もしも丸一日時間があったら何をしたいか」「中学生になったら大事にしたいこと」について、自分の考えをもつ。
2	<ul style="list-style-type: none"> テーマ※に基づいて、小グループで対話を行う。 ※第2時「もしも丸一日時間があったら何をしたいか」 第3時「中学生になったら大事にしたいこと」 グループを変えて、対話の内容を共有しながら、もう一度対話を行う。
3	<ul style="list-style-type: none"> 考えが深まるとは、「自分にはない考えを知り、考えが広がったこと」「自分と同じ考えを聞いて、自信をもつこと」「自分と異なる考えを聞いて、考えが変わること」であるとし、3つの視点に沿って振り返りをする。 <p style="text-align: right;">【人間関係形成・社会形成能力】</p>

授業を実践するポイント！

第1時で学習の趣意説明を行い、児童にとっての学ぶ必然性を高める。第2時は対話の練習として位置付け、必要に応じて教師が介入し、指導する。第3時は児童同士で対話をし、上記のように視点を明確にした振り返りを行う。教科の目標を達成できるように授業を構成することで、同時に【人間関係形成・社会形成能力】を育てることができる。

単元名

「江戸幕府と政治の安定」

単元の目標

- 江戸幕府が権力を持続させるために行った政策から、世の中を安定させるためにどんな意識をする必要があるかを考え、幕府や様々な立場の視点から「世の中の安定」について自分なりの考えをもてるようにする。

キャリア教育として身に付けさせたい力

- 学習問題を解決するために、クラスで話し合っ出された予想の視点から、「何を使って」「どのような学習形態で」「どの順番で」を考えることを通して、課題解決までの道のりを適切に計画したり、判断したりする力を育む。【課題対応能力】

指導計画

時数	学 習 活 動 ・ 内 容
1 2	<ul style="list-style-type: none"> 江戸幕府のしくみについて知り、学習問題を話し合う。 学習の進め方を確認し、解決までの計画を考える。 <p style="text-align: right;">【課題対応能力】</p>
3 4 5 6	<ul style="list-style-type: none"> 3～6時間は、一人ひとりが計画したテーマの順番に調べる。 ○家光はどのように江戸幕府を安定させたのかについて調べる。 ○幕府は、大名に対してどんな政策を行ったのかについて調べる。 ○幕府は、民に対してどんな政策を行ったのかについて調べる。 ○幕府は、外国に対してどんな政策を行ったのかについて調べる。
7 8	<ul style="list-style-type: none"> これまで調べたことを確認し、「安定に必要なこと」は何かを幕府側や市民側から考え、全体で共有する。 これまでの学習から「世の中の安定」には、どのような考え方が必要かを考える。

授業を実践するポイント！

第1時で学習問題から予想の視点を見だし、学習計画を作ることができるかが大切である。そのために、これまでの学習と結び付けたり、自分の立場で考えさせたりすることで、ねらいに迫ることができる導入を行う必要がある。また、毎時間どんな考えから、学習を進めていたのかを話題にし、取り組み方の意識を継続できるようにしていく。これを繰り返すことで、【課題対応能力】を育てることができる。

単元名

「ゴール型ゲーム」

ラダーコートボール

単元の目標

- 得点の仕方やミスの質といったチームの特徴について分析し、その特徴に応じた作戦を選び、自己の役割を確認することができるようにする。

キャリア教育として身に付けさせたい力

- 得点できた時やミスが起きた時のゲーム中の動きについて分析し、チームの課題やそれを解決するための作戦・練習方法を考えることを通して、課題を発見・分析したり、適切な計画を立ててそれを処理・解決したりする力を育む。【課題対応能力】

指導計画

時数	学 習 活 動 ・ 内 容
1	• オリエンテーション（ゲームの流れやルールについて見通しをもつ）
2	• 試しのゲーム（チームの特徴をつかみ、それに合った練習方法を知る）
3	• リーグ戦を通してチームの課題解決を図る。 【課題対応能力】 ○ゲーム①
4	○結果の分析（ゲームの内容を動画で確認する）
5	○得点の仕方やミスの質に合わせて、練習方法を考え、実践する。 または、次のゲームに向けて、チームの特徴に合った作戦を考える。
6	○ゲーム② ○本時のふりかえりをする。次回の活動内容を考える。

授業を実践するポイント！

チームの特徴をつかむために、コート外から自チームのプレーを撮影する役割を作る。動画を基にチームの特徴にあった練習方法や作戦について話し合うことで、勝利を目指すという共通の課題解決に向けて取り組むことができる。また、同時に【課題対応能力】を育てることができる。

なお、運動量を確保するために、授業の展開をパターン化し、教師による指示を必要最小限にするなどの工夫をして、練習時間を担保したりゲームを2回行ったりできるようにしたい。

単元名

「今に生きる言葉」 矛盾から

単元の目標

- ・ 故事成語の働きを理解し、適切に使うことができるようにする。
- ・ 漢文を訓読の仕方を理解し、古典特有のリズムで音読を楽しむことができるようにする。

キャリア教育として身に付けさせたい力

- ・ 自らが選んだ身近な故事成語について調べ、まとめる学習を通して、読み手意識を持ち、伝わる表現について考える課題対応能力を育む。【課題対応能力】
- ・ 自らが調べた故事成語についてグループで発表することを通して、他者理解の力を育む。
【人間関係形成・社会形成能力】

指導計画

時数	学 習 活 動 ・ 内 容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 故事成語について、教科書本文「矛盾」から漢文の訓読の方法や、その特徴を理解する。 ・ 身近にある漢語（故事成語）について考える。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書や副教材のなかから提示した故事成語のうち一つを選び、それについて調べる。 ・ 調べた内容を自分なりの方法でまとめる。 【課題対応能力】
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時で調べた故事成語について、グループのなかで互いに発表する。 ・ クラスで提示した故事成語を課題にしたクイズを行う。 【人間関係形成・社会形成能力】

授業を実践するポイント！

第1時、第2時で故事成語について学び、身近にあふれていることを理解させるよう指導する。第3時以降は自分で選んだ故事成語について、その由来や使い方を、一人1台端末を用いて調べる。調べる際には、聞き手や読み手を意識して発表を工夫することを意識させることで【人間関係形成・社会形成能力】を育むことができる。

単元名

「表現を工夫して書こう」

単元の目標

- 敬語の働きを理解し、適切に使うことができるようにする。
- 相手や目的に応じて通信手段を選び、気持ちや要件が的確に伝わるように表現を工夫することができるようにする。

キャリア教育として身に付けさせたい力

- 自己の経験を基に通信文について考えることを通して、受け取り手を意識した対人姿勢を育む。
【人間関係形成・社会形成能力】

指導計画

時数	学 習 活 動 ・ 内 容
1	<ul style="list-style-type: none"> • 身の回りの通信文（手紙、電子メール、通信用アプリケーション）を比較し、活用場面をグループで話し合う • 手紙の形式について確認する。 <p style="text-align: right;">【人間関係形成・社会形成能力】</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> • 職場体験のお礼状を、伝えたい内容と相手、使用する通信文を考える。 • 書きたいことを書き出し、精選する。 • 下書き用紙を参考に、下書きを書く。 <p style="text-align: right;">【人間関係形成・社会形成能力】</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> • 前時で書いたお礼状の下書きをグループのなかで発表する。 • 互いのお礼状について、教科書を参考に、意見を交わす。 • 推敲し清書を行う。 <p style="text-align: right;">【人間関係形成・社会形成能力】</p>

授業を実践するポイント！

第1時で通信文全般について、生徒たちの体験とあわせて振り返らせることで、第2時以降のお礼状で敬語を用いる意義について理解を深めることができる。手紙の形式を大切にしながら、相手の立場にたって体験で学んだことを丁寧に書くことで、【人間関係形成・社会形成能力】を育むことができる。

単元名

「鎌倉校外学習への取り組み」

～鎌倉の歴史的建造物を調べよう～

単元の目標

- ・校外学習の事前学習で鎌倉の歴史的建造物を調べ、発表ができるようにする。
- ・調べた内容をプレゼンテーションソフトでまとめ、発表することができるようにする。

キャリア教育として身に付けさせたい力

- ・調べ作業を通して、まとめた内容を発表する力を育む。【課題対応能力】

指導計画

時数	学 習 活 動 ・ 内 容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・各自で調べる「鎌倉の歴史的建造物」を決める。 ・プレゼンテーションを行う上のルールやきまりを確認する。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・調べる場所について、プレゼンテーションの構成を考える。 ・完成までの期日に向けて、計画を立てる。 ・各自で決まった「鎌倉の歴史的建造物」について調べる。 ・プレゼンテーションの構成や原稿の作成を行う。 <p style="text-align: right;">【課題対応能力】</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・各自で決まった「鎌倉の歴史的建造物」について調べる。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの構成や原稿の作成を行う。 <p style="text-align: right;">【課題対応能力】</p>
5	
6	<ul style="list-style-type: none"> ・各自で調べた内容を発表する。 ・発表で興味を持った場所を次のコース決めで活用する。 <p style="text-align: right;">【課題対応能力】</p>

授業を实践するポイント！

第1時で、どの鎌倉の歴史的建造物を調べるのか決めていく。また、プレゼンテーションの構成の例を挙げて、説明をする。

第2時から第4時にかけて、自分の担当する神社・仏閣を調べる。プレゼンテーションの構成や発表に向けた原稿を作成させることで【課題対応能力】を育てることができる。

第6時に、プレゼンテーションの発表をする。発表を聞いた上で、興味のある場所は、班のコース決めで行く場所の候補として、コース決め時に生かす。

単元名

「合意形成に向けて話し合おう」

課題解決のために会議を開く

単元の目標

- 具体と抽象、情報と情報との関係について理解できるようにする。
- 進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- 思いや考えを伝え合うことができるようにする。

キャリア教育として身に付けさせたい力

- 観点を決めて提案を検討・整理することを通して、情報を適切に収集し、意見をまとめる力を育む。【課題対応能力】
- 互いの意見を尊重しあい、考えを伝え合うことを通して、合意形成に導く力を育む。【人間関係形成・社会形成能力】

指導計画

時数	学 習 活 動 ・ 内 容
1	<ul style="list-style-type: none"> • 身近な課題について、解決のために話し合いをすることを通して、合意形成のしかたを学ぶことを理解する。 • 日常生活や学校生活、将来のことなどの中から関心のある課題を選び、クラスで話し合う議題を決める。 <p style="text-align: right;">【課題対応能力】</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> • グループで自由にアイデアを出し合い、提案を絞り込む。 • グループごとに具体的な提案をまとめる。 • 全体会議で提案するための準備をする。 <p style="text-align: right;">【課題対応能力】</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> • 全体会議の目的、役割を確認する。 • 議題を確認し、グループごとに提案を発表する。 • 共通点から提案を分類・整理する。 • 観点を決めて、提案を検討する。 <p style="text-align: right;">【人間関係形成・社会形成能力】【課題対応能力】</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> • 観点を決めて提案を検討し、互いの意見を尊重し合意形成に導く。 • 合意形成に向かうための話し合いにおいて効果的だったこと、改善すべきだったことをまとめる。 • 各自が書いたことを発表し、気づきを共有する。 <p style="text-align: right;">【人間関係形成・社会形成能力】</p>

授業を実践するポイント！

第1時で合意形成のしかたを学び、実践し改善点を見付けることで第4時につなげていく。第2時にグループで話し合いを行うことで、【課題対応能力】を育てることができる。第3時で身に付けた【人間関係形成・社会形成能力】を活用して、第4時で互いの意見を出し合い、考え方を深める。

単元名

「情報社会を生きる」

単元の目標

- 実用的な文章（広告・取扱説明書・パンフレット・行政機関からのお知らせ）の工夫について理解し、生活の中で生かす方法を考えることができるようにする。
- 新聞記事を比較して読み、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価することができるようにする。

キャリア教育として身に付けさせたい力

- 新聞記事について、グループで協力し比較検討を行うことを通して、お互いの発見を気づき、参考にする基本的な対人姿勢を育む。【人間関係形成・社会形成能力】
- 様々な新聞のなかから、課題を探すことを通して、課題対応能力を育む。【課題対応能力】

指導計画

時数	学 習 活 動 ・ 内 容
1	<ul style="list-style-type: none"> • 身近にある実用的な文章を比較し、その特徴を考える。 • 教科書を例に、実用的な文章の構成や論理展開、表現の仕方について理解する。 • 受け手になった時、それらの広告やパンフレットを見たときに、留意することをグループで考え発表する。 【人間関係形成・社会形成能力】
2	<ul style="list-style-type: none"> • 同日のさまざまな新聞の記事から、同様の内容について書かれているものを探す。 • 記事を比較して読み、各社の違いについてグループで話し合う。 【人間関係形成・社会形成能力】
3	<ul style="list-style-type: none"> • 記事の本文を第一時で学んだ、構成や論理展開、表現の仕方の観点で検討し、違いをまとめる。 • 個人の学習プリントに、比較して分かった違いについてまとめる。 【課題対応能力】

授業を实践するポイント！

第1時で、比較検討をするときに大切なポイントを生徒たちに提示しておく。新聞記事については同日のものを用意することで、同じ事柄について、どのようなところに記事の力点を置いているか、違いが明確になる。グループ活動を行うことで、考えの共有を図り、【人間関係形成・社会形成能力】【課題対応能力】を育むことができる。

単元名

「相似な図形」

三角形の相似条件を利用して図形の性質を調べる

単元の目標

- 三角形の相似条件を使って図形の性質を証明することができるようにする。

キャリア教育として身に付けさせたい力

- 問題発見と課題を設定することで、自分の現状を把握する力を育む。

【自己理解・自己管理能力】

- 根拠となる事柄を明らかにして証明することを通して、物事に対応する能力を育む。

【課題対応能力】

指導計画

時数	学 習 活 動 ・ 内 容
1	拡大図をかいてみよう
2	• 形を変えずに拡大や縮小して得られる図形の性質を調べる。
3	• 数学的活動も交え、相似な図形の辺の長さを求める。
4	【自己理解・自己管理能力】
5	三角形の相似条件
6	• ある三角形と相似な三角形を描くためには何がわかればよいか考える。 • 三角形の相似条件を利用して、図形の性質を調べる。
	【課題対応能力】
7	相似の利用
	• 建物の高さや川幅など、直接には測定できない長さや距離を、縮図を利用して求める。
	【課題対応能力】
8	問題演習「基本の問題」
	• 証明問題を相手に説明して伝える。(発表)

授業を実践するポイント！

第1時で実際に作図を行い、その後の授業への関連付けを図る。第1～4時で数学的活動を行うなかで自分の現状を把握することで【自己理解・自己管理能力】を育てることができる。

第5～7時で、相似の条件や相似の利用について、根拠を明らかにして証明する活動を通して【課題対応能力】を育てることができる。

単元名

「式の計算」

式の展開と因数分解及びその利用

単元の目標

- 多項式の計算ができるようにする。
- 多項式の計算方法を考えることができるようにする。
- 多項式の計算やその方法を考えることを通して、そのよさに気づき、その解決過程を振り返って評価・改善する態度を養うことができるようにする。

キャリア教育として身に付けさせたい力

- 単元学習計画を活用して、自分の学習に見通しをもち、その計画に自身の進捗状況や振り返りを入力することを通して、学習に調整しながら粘り強く取り組む力を育む。【課題対応能力】
- 自分に合った学習形態、学習方法を選択させることを通して、学びを主体化し、学習に取り組む力を育む。【自己理解・自己管理能力】

指導計画

時数	学 習 活 動 ・ 内 容
1 2 3	<ul style="list-style-type: none"> • 単項式と多項式の乗法を行う。 例：$2a(3a+5b)$ • 多項式を単項式で割る除法を行う。 例：$(6a^2+12a) \div 2a$
4 ~ 11	<ul style="list-style-type: none"> • 4つの公式を用いて、簡単な式の展開及び因数分解を行う。 例：$(x+a)(x+b)=x^2+(a+b)x+ab$ など
12 ~ 16	<ul style="list-style-type: none"> • 文字を用いた式で数量及び数量の関係を説明する。 例：次の式を工夫して計算する 102×98 $499^2 + 499 + 500$

【課題対応能力】
【自己理解・自己管理能力】

授業を実践するポイント！

単元を通して、単元学習計画の活用及び学習形態・方法の選択をさせた。その中で、生徒が学習の見通しをもったり、毎時間の振り返りを積み重ねることで、【課題対応能力】【自己理解・自己管理能力】を育てることができる。

また、展開や因数分解で学習したことを、少し大きい数に対して活用することで、学習したことがつながることを実感できる単元である。

単元名

「社会の発展と情報の技術」

～計測・制御のプログラミング～

単元の目標

- ・計測・制御システムの基本的な構成を理解できるようにする。
- ・これからの情報技術について考えることができるようにする。

キャリア教育として身に付けさせたい力

- ・問題発見をすることを通して、課題の設定する力を育む。【課題対応能力】
- ・これからの情報の技術を通して情報の技術を工夫し創造していこうとする態度を育む。
【キャリアプランニング能力】

指導計画

時数	学 習 活 動 ・ 内 容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・計測・制御システムの仕組みを理解し、安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びバック等ができるようにする。 ・身の回りにある計測・制御システムについて考え、将来的にどのような場面で活用できるか話し合う。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に課題を見出しその課題を元に、計測・制御システムを構想して情報処理の手順を具体化できるように話し合う。 【課題対応能力】
3	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に考えた構想を元に計測・制御システムを活用したプログラムを考える。 【課題対応能力】
4	<ul style="list-style-type: none"> ・計測・制御システムを活用したプログラムを考える。 【課題対応能力】
5	<ul style="list-style-type: none"> ・計測・制御システムを取り入れたプログラムを発表する。 ・発表を通して、改善できること、工夫できることを振り返る。【キャリアプランニング能力】

授業を实践するポイント！

第2時で、その計測・制御システムの将来性を考えさせたり、第3・4時で、実際にプログラムを考えさせたりすることで【課題対応能力】を育てることができる。

第5時に、第3時から作成させたプログラムを発表させる。生徒が発表を聞いた上で、改善できることや、工夫できるところを話し合わせ、今後の活動に生かすことで、同時に【キャリアプランニング能力】を育てることができる。